



**書 名：幼児教育と小学校教育がつながる
ってどういうこと？**

著 者：文部科学省

出版社：東洋館出版社

所 在 ：7F開架大型図書コーナー

請求記号：E376.15/Mo24

資料 I D：14169849

本書は、幼児教育と小学校教育の接続について、幼児期の遊びを通した学びと小学校の各教科等の学習のつながりを見える化しています。

特に教科等における学びのつながりにおいては、幼児期の遊びを通した学びと各教科等の学習（小学校1年生で学習する全ての各教科等）とのつながり等がわかりやすく解説されており、幼小接続を理解を深める最適な一冊です。



書 名：見直そう！保育現場の「なぞルール」
著 者：石井章仁
出版社：中央法規出版

所 在 ：6F開架閲覧室
請求記号：376.1/I75
資料 I D：04638328

本書では、保育の現場でこれまでやってきたことを何も疑問に思わずに、むしろ望ましいかのように継続的に行われていることがあるのではないかと疑問を投げかけています。

保育の現場における「謎のルール」として取り上げ、見直しの視点や方法、工夫について考えます。



書 名：インクルーシブ保育っていいね
著 者：小山望ほか
出版社：福村出版

所 在：6F開架閲覧室
請求記号：378/154
資料 I D：03843033

障害児保育とインクルーシブ保育には、どのような違いがあると思いますか？授業で耳にした方もいれば、知らない方もいるかもしれません。どちらも『障害のある子どもも含んでの保育』という側面では同じですが、理念には違いがあります。

この本は『インクルーシブ保育とは？』という基本的な内容から、実践例まで広く紹介されています。多様な子どもたちの姿から先生方の関わりが光る瞬間まで、ぜひ読んで確認してみてください。



書 名：運動脳
著 者：アンデシュ・ハンセン(著),
御船由美子(訳)
出版社：サンマーク出版

所 在 ：7F開架閲覧室
請求記号：491.371/H29
資料 I D：14081216

「運動しながら勉強すると効率が上がる」という話を聞いたことがありますか？実は、運動しながら暗記した方が、何もせずに暗記した人よりも多くの単語を覚えられたという研究結果があります。

本書「運動脳」は、そんな運動と脳の関係を、科学的な視点からわかりやすく紹介しています。運動が苦手な人でも、「少し身体を動かしてみようかな」と思えるはず！大学生活をより充実させるヒントが詰まったおすすめの一冊です。



**書 名：子どもはいかにして文字を習得
するのか**

著 者：松本博雄

出版社：北大路書房

所 在 ：6F開架閲覧室

請求記号：376.158/Ma81

資料 I D：14220500

幼児期の文字習得を、「正しく読み書きする」能力の獲得というよりも、遊びを通して子どもが自分の興味関心や意志を伝え合う手段として捉え直した実践研究。写真とともに綴られたエピソード、保育者と取り組んだ「ぶんつう」「しんぶん」プロジェクトでは、文字を活用する喜びと楽しさが生き生きと描かれています。先行研究に基づくテーマ設定、結論と今後の課題の提示など、研究過程や論文構成を学ぶ上でも参考となる一冊です。



書 名：世界でくらすクルドの人たち
著 者：金井真紀
出版社：福音館書店

所 在 ：5F開架こども図書館
請求記号：E
資料 I D：14163514

日本には多様な文化的背景をもつ人々が暮らしています。本書で紹介されているのはクルドの人々。春分の日、さいたま市ではクルドの新年のお祝い「ネウロズ」が開かれます。著者の金井さんはネウロズに参加したことから、世界で暮らすクルドの人々を訪ね、その生活や文化に触れていきました。困難の歴史、美しいドレスに秘められた思いを知るうちに、クルドの人々に親しい気持ちがわいてきます。多文化共生社会を考える一歩に。



書 名：プラハの古本屋
著 者：千野栄一
出版社：中央公論新社

所 在 ：5F開架ポピュラーライブラリー
請求記号：BK
資料ID：14162879

海外研修引率でプラハを訪れたとき、カバンにいられた一冊。
著者は言語学者で、戦後すぐチェコのプラハ大学に交換留学生として迎えられました。本をめぐるチェコとの人々とのユーモラスなやりとり、二か国語の間で揺れながら獲得されていく我が子の言葉、チャペックの童話のことなど、話題は縦横無尽。当時、チェコは社会主義の国でした。海外研修でプラハに行く学生は、今とかつてを重ねて歴史を感じてみてはいかがでしょう。



書 名：こどもを野に放て！

AI時代に生きる知性の育て方

著 者：養老孟司,中村桂子,池澤夏樹,春山慶彦

出版社：集英社

所 在：7F開架閲覧室

請求記号：404/Ko21

資料ID：14169857

子どもの育ちにおいて、自然とのかかわりや身体を使った体験がなぜ大切なのかを考えさせてくれる一冊です。

本書では、春山慶彦氏が養老孟司氏、中村桂子氏、池澤夏樹氏と対話し、自然体験を通してAI時代に求められる知性の育み方を語ります。

知識だけでなく、身体全体を使って自然を感じる経験が、知性や感性の土台になることを学べます。保育者を目指す学生におすすめの本です。



書 名：子どもとめぐることばの世界
著 者：萩原広道
出版社：ミネルヴァ書房

所 在 ：6F開架閲覧室
請求記号：376.11/H14
資料 I D：14169865

皆さんは、子どもの頃、どんなふうに
「ことば」を身に付けましたか？おそらく
覚えてはいないでしょう。けれど、そ
こにはたくさんの試行錯誤があったはず。
そして、そんな皆さんの姿は、周りの大
人を笑顔にしたり、感心させたりしてい
たことと思います。
そんな愛おしい過去にも思いを馳せなが
ら、読んでみてほしい1冊です。